



HOKKAIDO
YOUNG
PROFESSIONALS
GO ON
THEIR
JOURNEYS

明日の北海道をつくる。

道職員活躍事例集（中堅職員編）

「その道の、プロへ。」 vol. 1

～目指せ！次代のプロフェッショナル～

HOKKAIDO-Young Professionals Go on their Journeys

「その道の、プロへ。

～目指せ！次代のプロフェッショナル～」

この活躍事例集は、各所属・職員のご協力により、道職員のロールモデルについて、インタビューやメッセージなどを取りまとめたものです。

これまで、女性編（①～④）、派遣編（①～④）、両立支援編（①～③）と、仕事と子育てを頑張っている職員や、様々な派遣先で活躍する職員の紹介を行ってきました。

今回は、様々な行政フィールドの最前線で活躍している中堅職員に、これまでの業務や勤務地での経験を語ってもらいました。

若手職員の皆さんには、キャリア形成の具体的なイメージの参考として、また、これから北海道職員を目指す方々には道職員として働くことの魅力について、さらに一層の理解を深めていただけることを願っています。

H29.11.30 総務部人事局人事課





01-総務部財政局税務課税制企画グループ	主任	木村	一也……3-4
02-総合政策部知事室秘書課調整グループ	主任	管野	幸奈……5-6
03-環境生活部環境局エゾシカ対策課有効活用グループ	主任	福田	武博……7-8
04-保健福祉部地域医療推進局地域医療課救急医療グループ	主事	東田	麻未… 9-10
05-保健福祉部福祉局地域福祉課生活保護グループ	主任	中村	明広…11-12
06-経済部産業振興局環境・エネルギー室電源地域グループ	主任	佐藤	彩花…13-14
07-農政部農村振興局事業調整課事業管理グループ	主任	蓼内	雄大…15-16
08-渡島総合振興局産業振興部商工労働観光課	主事	近藤	裕壮…17-18
09-オホーツク総合振興局地域創生部地域政策課市町村係	主任	竹林	遼 …19-20
10-根室振興局産業振興部水産課漁政係	主事	山口	徹大…21-22



総務部財政局税務課 税制企画グループ

主任

木

村

かず

一

也

(31)

H18.5 渡島総合振興局 地域政策部納税課 第一係（採用）

初任地の渡島では、納税課で5年間、道税の徴収（滞納整理）や道税広報の企画立案等の業務に携わりました。採用間もない5月は自動車税の納期限と重なり、課内の電話機がすべて塞がることもあり圧倒されましたが、同時に、互いの業務を自然とカバーし合う税務職員の姿にチーム力を感じました。

H23.6 渡島総合振興局 地域政策部課税課 第二係（課内異動）

課税課で3年間、不動産取得税の課税業務に携わりました。主に新築された店舗や工場等の大規模な建物について、建物図面などを踏まえながら「適正な時価」を求める家屋評価の担当でした。現地調査では様々な職種の現場へ赴き、そこで働く方々と接することで自らの見聞を広めることができました。稀に建物図面の提供を受けられなかった際には、建物を実測して図面を起こすこともあり、気分は「建築設計士」。夢中になれた業務でもありました。

H26.4 総務部 財政局税務課 税制企画グループ（現所属）

本庁に異動後は、道の歳入のうち道税の収入見込み、地方交付税に係る道税の収入推計や道議会対応に係る業務等を担当しています。その多くが他部課との調整が必要で、相手方の共感を得られるまで何度も説明に通い、その度に求められる資料要求に短期間で応えなければならないプレッシャーがありますが、それを跳ね返せる根気強さを養える場であると捉えています。

●印象に残っている業務：「道税収見込み」

「道税収見込み」とは？…年度末までに収入となる税額を実績や各種（経済）指標等を用いて分析し、道の歳入予算に計上するもの。

道税には14種類の税があり、各々の制度の把握、税収に連動する経済活動の動向分析、導き出した数値の検証…など見込み額を算出するためには、様々な壁をクリアしなければなりません。

しかしながら、各税目担当者の膨大な作業や先輩のフォローにより壁が取り除かれ、前へ進むことができたと思っています。私が担った業務で最も難儀なものでしたが、組織のチカラを実感し、自らの得意・不得意を見出す等、多くの「気づき」を得ました。

これまでを振り返ると、私の側には「5年後、10年後にこうでありたい」思える上司、先輩の姿がありました。その背中に近づきたい想いがキャリアを考えるきっかけとなったように感じています。

子どもたちが試合を見にきてくれました！／



）休日の過ごし方

春から秋の間は、長男が所属する「野球少年団」のコーチとして、早朝から夕方まで練習や試合へ同行しています。週末は野球漬けになりがちのため、我が家の4人の子に対して、時間的には平等に接することができない悩ましい点も、妻のバックアップがあって継続することができています。子どもたちの試合運びに一喜一憂し、時には涙を誘う感動のプレーを間近で体感できていることは、私自身の刺激にも活力にもなっています。

＼税務課のメンバーと一緒にマラソンに参加／

）同僚たちとの関係

本庁に異動後、上司の誘いで（主に税務職員で構成される）駅伝サークルの一員となりました。学生時代、部活の練習前に行われるランニングが苦痛だった私でしたが、「たすきをつなぐ」という魔法のコトバが自身の精一杯のチカラを引き出し、その背景にある仲間の大切さを実感できる機会になりました。大会には、異動となった先輩や同僚も集って出場し、打ち上げの際に交わす乾杯がまた格別です。



）普段心がけていること

先輩から「忙しい時こそ早く帰りなさい」と常々言われることから、定時退庁を心がけています。気持ちの焦りや集中力欠如の下では、質の高い仕事をする事ができないためです。上司からも有給休暇の取得を促していただき、ワークライフバランスが確立されたなかで仕事できています。プライベートの充実が仕事へのモチベーションの維持に資していると実感しています。

）異動について

初任地の渡島は、地元でしたので特に愛着がありました。当時は「北海道新幹線」開通が目前に迫った時期でもあったので、様々な事業やイベントが催されており、お手伝いや参加を通じて地元へ恩返しできる機会をいただけたと思っています。

私はこれまで税務内での異動でしたが、職務は同じであっても職場により懸案への対応手法や決定プロセスに違いがありました。1つでも多くの手法を知ることで後に生きるスキルを身につけることができるとと思っています。

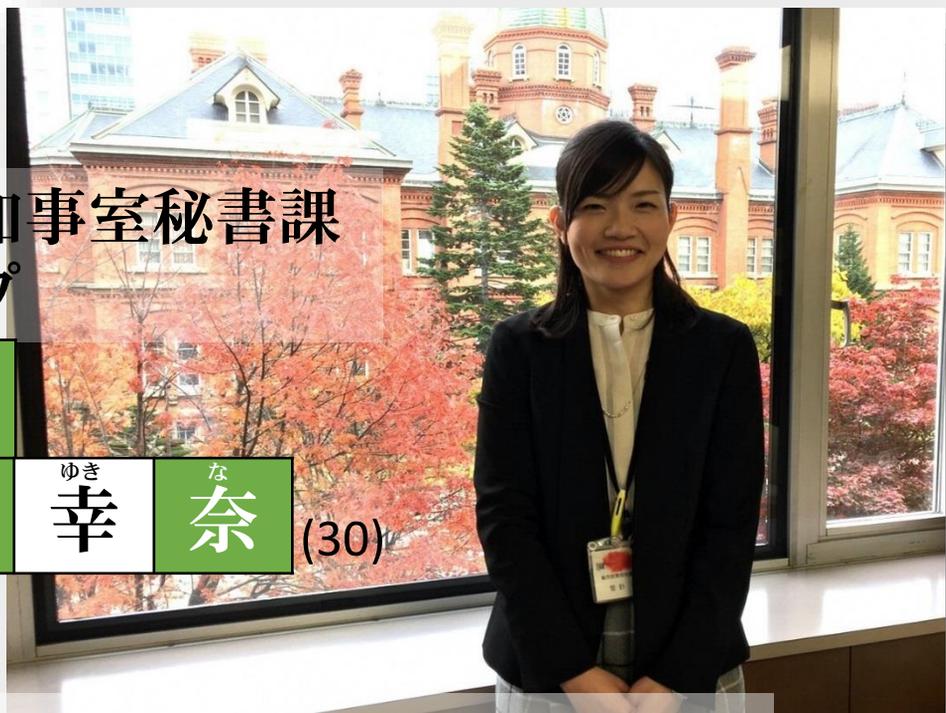
）今後どのような職員を目指していきたいか

目標は大きく…「憧れを与えられる職員」になりたいです。今春の「北海道職員採用セミナー」で職場紹介をさせていただいた際には、「道職員を目指したい」、「税務に興味を持った」等といった参加者の生の声を聞くことができ、私自身の励みになりました。

公務は性質上、脚光を浴びることは少ないですが、まず「やりがい」を知ってもらうことが必要だと感じました。私たちが幼少期に「なりたい職業は？」と尋ねられ、「野球選手」、「学校の先生」や「看護師」と答えたように、いずれ「道職員」と言われる日を目指し、生き活きとした姿勢で仕事に臨んでいきたいです。

総合政策部知事室秘書課 調整グループ

主	任		
かん	の	ゆき	な
管	野	幸	奈 (30)



H18.5 後志総合振興局 森林室管理課 管理係 (採用)

↓

初任地では、管理課で旅費や工事費の支払い、物品の購入などの庶務を担当していました。当時、上司に一から教えていただいて身についた財務事務の基礎知識は、現在の職場でも活かされています。訪れたことのない土地で初めての一人暮らしでしたが、上司や先輩の皆さんに様々なことを教えていただき、楽しく充実した5年間を過ごすことができました。

H23.6 空知総合振興局 地域政策部地域政策課 地域政策係

↓

管内の市長・町長が地域づくりに向けた意見交換を行う会議の開催や、道の総合計画の地域計画の推進管理などを担当していました。業務も初任地とは全く違い、最初は戸惑うこともありましたが、振興局内の各課と調整を行う業務が多かったため、振興局には様々な事業や業務があることを知ることができました。

H27.6 総合政策部 知事室秘書課 秘書グループ→調整グループ(現職)

秘書グループでは、知事が円滑に業務を進めることができるように、知事秘書と相談しながら細かな準備をしたり、知事が出席した行事を紹介するホームページの更新作業などを担当していました。知事から指示があったことに速やかに対応するため、課の職員全体に常に緊張感があり、とても貴重な経験をさせていただきました。

今の調整グループでは、臨時職員の任用や旅費の支給その他の庶務を担当しており、職員が、快適に業務を進められるような環境づくりに努めています。

●印象に残っている業務

空知の地域政策課で勤務していた時、各市長・町長や自治体で働く職員の方々から、今後の地域の目指す姿や地域活性化に向けた様々な意見を聞く機会が多くありました。

空知は出身地を含む振興局でもあり、自分たちの住む地域の課題や未来について真剣に向き合っている方々に接することで、どんな分野でも、少しでも道民の皆さんのお役に立つことのできる職員になりたいと思うようになりました。

＼空知時代に同僚たちとお祭りに参加！／



）休日の過ごし方

後志では、温泉や道の駅めぐりをしていました。働くまで後志にはほとんど行ったことがありませんでしたが、自然が多く、冬のスーパーは外国かと思うくらい外国人が多いなど、初めて見る光景や景色がたくさんありました。

空知では、地域のお祭りに行ったり、地元の弓道連盟に入り、業務後に練習に行ったり大会に出たりして楽しんでいました。

）同僚たちとの関係

後志では、初めての一人暮らしだったため、食生活を心配して上司や先輩からご飯に誘っていただいたり、家族のように暖かく接していただき、本当にお世話になりました。

空知では、課の中に年齢の近い職員が多く、誰かの誕生日が近くなるとプレゼントを買ってみんなで集まってお祝いをするなど、楽しい思い出がたくさん出来ました。

後志や空知で一緒に過ごした方々とは、時々集まって当時の思い出や近況を話したりするなど今でも交流があり、会う度にとっても良い気分転換になり、初心にかえってまた頑張ろう、と思わせてもらえる大切な存在です。

＼空知の弓道連盟の練習風景／



）異動について

住んだことのない地域で、新しい仕事を覚えながら生活していくことは大変なことも多いですが、自分一人だけではないので、周りの皆さんに助けをもらいながら、なるべく早く環境に慣れることができるよう心がけています。異動することで多くの人に出会い、様々なことを吸収できることは、自分の成長にもつながると思います。

）今後どのような職員を目指していきたいか

これまで3カ所の勤務地でそれぞれ違う業務内容だったため、どのような分野に関わってきたいかは現在模索中ですが、様々な場所・分野で必要な知識と経験を身につけていきたいと思っています。そして、関わる道民の方々や周りの職員の皆さんとコミュニケーションをとることを何よりも大切にして、求められていること・やるべきことを的確に理解し、対応することのできる道職員になりたいと思っています。

環境生活部環境局 エゾシカ対策課 有効活用グループ



主	任		
ふく	だ	たけ	ひろ
福	田	武	博

(33)

H26.4 後志総合振興局 保健環境部環境生活課 地域環境係(採用)

初任地の後志総合振興局では、環境生活課で廃棄物関係の仕事を担当していました。多くの人と同じで、これまで経験したことのない分野の業務であり、また道職員としての仕事も初めてなので、完全にゼロからのスタートです。主査と2人体制で業者に立入検査等に行くことが多かったのですが、移動の車の中でどういう点に注目すべきかを聞き、現場で実際に見て（場合によってはゴミをかき分け調査し）、帰庁してから法令に照らし合わせて確認することで廃棄物に関する知識と、適正指導や助言を行うノウハウを身につけていきました。

H28.9 環境生活部 環境局エゾシカ対策課 有効活用グループ(現職)

3年目の途中に異動となり、新たな分野であるエゾシカ対策課での勤務となりました。私は趣味で学生のころからエゾシカの狩猟をしており、現場を知っていることからこの分野は比較的取り組みやすかったのですが、本庁にはいろいろな種類の業務があるうえ、初めての経験ということもあり、常に繁忙期のように感じます（夏は各種事業契約、秋はシカ肉の旬にあわせたPR事業や来年度予算の検討、冬は捕獲業務の現地確認など）。しかし、この課で仕事をすることが道職員になるモチベーションとなっていたので、たくさんの仕事はあるものの、日々興味を持ってエゾシカに関する業務にあたっています。

●印象に残っている業務

エゾシカの有効活用促進事業については、エゾシカ問題や、シカ肉の味などを正しく理解してもらえるようなPRを行っています。そのなかでも、私がこの業務についてやりがいを最も感じるのは、「PRイベントが無事に終わる」ということではなく、その後の「何らかの効果を知ったとき」です。我々が実施したPR事業を体験して、エゾシカ問題や、その価値・魅力に気づいてくださった方が、学校給食のメニューに組み込んで児童生徒がエゾシカについて学ぶ場を設けたり、エゾシカ料理を北海道ならではのメニューとしてお店で提供してくれたりなど、様々なものがあります。このような効果が現れることは決して多くはないのですが、自分の仕事人が人の気持ちを動かす原動力になり、役に立つことができた、と一番実感することができる場面です。

＼エゾシカ肉もBBQ！／



）休日の過ごし方

アウトドアで遊ぶことが趣味である私にとっては、自然を楽しむスポットがたくさんある後志はとても過ごしやすい場所でした。夏は登山やバイクでツーリングを楽しみ、夜は外でバーベキュー、時には地元の猟友会で有害鳥獣の駆除のお手伝いを行い、冬は比羅夫のスキー場や、道内各地にエゾシカ狩猟に行ったりしていました。また、休日の疲れを平日の仕事に持ち込まないために、温泉でリラックスすることも楽しみのひとつ。後志には泉質が異なる温泉がたくさんあるため、自分のお気に入りの温泉を探し出すのも楽しかったです。

＼羊蹄山の周りをツーリング／



）同僚たちとの関係

多くの方は倶知安の公宅に住んでいましたが、私は少し離れたところにある家を借りて住んでいたため、プライベートでは職場の人とあまり顔を合わせることはなかったのですが、仕事後に飲み屋街に出かけたときは、課も年次も異なるのに、気軽に声をかけてくれる人がいるアットホームな環境でした。今でもFacebookなどで投稿されている後志のイベント情報や季節の移ろい、知人の飲み会の様子を見て、当時の楽しかったことをたくさん思い出します。

）異動について

振興局から本庁に異動してくる際、新しい担当業務は、これまでとは全く異なる分野であるためイチから仕事を覚えることに不安を感じていました。ですが、職員として業務を遂行する「基本の部分」はあまり差異を感じることはなく、新しい分野の仕組みなどを理解すれば何とかなると思います。また上司や先輩方も手厚くフォローしてくれるので、心配いりません。

）今後どのような職員を目指していきたいか

振興局と本庁をまだ一所属ずつしか経験したことがないので、どの分野を希望し、どのような職員になりたいかははっきりと決意していません。まずは、できる限り多くの職場で業務を行って広い知見を持ち、自分が興味を持った分野で、より道政に貢献できるような道を見つけていきたいと考えています。いろいろな地域でいろいろな業務を経験することにより、誰にも負けない経験値の多さと総合的な判断力を身につけ、スペシャリストでありながら、ゼネラリストとしても活躍できる、職員からも現場の方からも頼られるような職員になりたいです。



保健福祉部地域医療推進局 地域医療課救急医療グループ

主	事		
ひがし	だ	あさ	み
東	田	麻	未

(29)

H20.5 後志総合振興局 地域政策部地域政策課 統計係(採用)

→市町村係

初任地では、地方債や地方交付税、選挙事務などを担当していましたが。難易度が高い業務が多く、初めのうちは時間がかかり、日々頭がパンクしそうでしたが、いつも素早く的確に仕事をこなし、忙しさを見せない先輩たちに憧れ、早く自分もこんな風に働きたいと必死で取り組みました。社会人としての基本姿勢である、苦手だからと後回しにしないこと、今目の前にあることに全力で取り組むこと、また働く責任の重さを学びました。

H26.4 新得町役場 産業課観光係兼新得町観光協会

採用6年目には、新得町への派遣が決まり、はじめは知人もいない地域で何ができるのか不安しかありませんでしたが、新得にはたくさんの絶景スポットが点在し、観光振興に取り組むにはどれもが素晴らしいことに気づき、私なりに色々な企画や提案を行いました。なかなかうまくいきませんでした。そのとき上司から、「町のためを思っている企画なのだから、町の人々の意見をよく聞くことが大切では」と言われ、誰の目線で仕事を進めるべきか気付きました。この考えは、異なる分野で働いている今でも、必要な経験だったと思います。

H28.4 保健福祉部 地域医療推進局地域医療課

救急医療グループ(現職)

今の所属では、「人を突然襲う疾病」から救うため、常に迅速な対応や体制整備が求められ、様々な医療機関の方と共に、訓練や研修を重ねています。私は医師や看護師ではないため、できることは限られていますし、一言に地域医療といっても複雑で多岐にわたる課題が多いですが、「命を守る」という私なりの考えを大切に、精一杯の役割と責任を果たしていきたいと強く思います。

●印象に残っている業務

新得町で、道内スノーリゾートの誘客促進を目的に、海外メディアが集まるプロモーションイベントが開催されることになり、町長から「外からの目線で、町をアピールする方法を考えて欲しい」と指示があり、考えついたのは、ここに住む人々の何気ない「日常」をPRすることでした。毎日食卓に並ぶ地場製品の美味しさ、優しく声をかけてくれる町民の温かさこそが、新得を知らない方々への「売り」になるのではと感じ、「新得町の日常」を体験してもらうイベントを提案し様々な方の協力により、開催したイベントは大好評でした。何より各国の方から、「こんなに町が一体になってもてなしてくれるのは、はじめて。新得町にまた来たい」と、とても嬉しい言葉を頂き、感激しました。「あの土地にまた行きたい」、「あの人たちにまた会いたい」と思われる町こそが、本当の観光地なのかな、と感じました。

＼オータムフェストで出店のお手伝い！／



）休日の過ごし方

昔から体を動かすことが不得手でしたが、入庁後は「その土地で一番の思い出となる何かをしてから異動したい」と思うようになり、倶知安では羊蹄山、新得ではトムラウシ山に登り、帯広では秋の大きなイベントであるマラソン大会「フードバレーとかち」に出場するなど、自分でも驚くくらい活動的に過ごす事が増えてきました。初めてのワカサギ釣りや、札幌大通公園で開催されるオータムフェストで新得の鹿肉を出店するお手伝いなど、その土地の良さを十二分に感じる中で忘れられない経験が増えていきます。

）同僚たちとの関係

何事も初めてだらけの転勤は不安で押し潰されそうでしたが、そんな時、支えてくれたのは、後志時代に会った上司や先輩、十勝で勤務している道庁の知人・友人でした。

ある上司からは「一度でも会って一緒に働いて、一緒に飲めば、もう大事な仲間。いつでも頼っていいんだよ」と言って頂いた時、涙が出るほど嬉しかったのと同時に、視野が狭くなって不満が募っていた自分の気持ちのつかえを取り払ってくれました。これまで、人に恵まれた環境の下で仕事ができていることにとても感謝しています。これからも、出会いの一つ一つを大切に私自身の励みにしていきたいと考えています。

＼職場の人たちとニセコ町のアイスバーにて／



）異動について

私は地元（後志管内）が大好きなので「地元から離れたくない」という気持ちは、今も昔も変わりません。それでもこれまでの経験から、「自分がやってみたい仕事、関わってみたい仕事」に巡りあうチャンスの一つが人事異動ではないかと思えます。民間企業に勤める知り合いの多くが「異動は断れない」と言っているのを聞きますし、どの職場でも異動はごく自然なことだと思えます。もちろん、異動に伴う不満や不安がない訳ではありませんが、それも含めて、新しい環境に身を置くことで得られる経験や出会いこそが何事にも代え難い貴重な機会だと思っています。

）今後どのような職員を目指していきたいか

「大丈夫」。道職員になって9年間、この言葉にどれだけ救われたか分かりません。「もしかしてこれは大きな失敗なのかもしれない」と不安いっぱい相談した時に、上司に言われた「大丈夫」は、たった3文字なのに一瞬で不安を取り除いてくれる魔法の言葉のようだ、いつも思います。それでも人を安心させられる「大丈夫」が言えるようになるためには、今以上に困難な課題や難しさが感じられる多くの仕事を経験し、その経験こそが、自然と周囲から信頼が得られるような職員になれる一番の近道と思いつつ、いつしか自分の下にも後輩が配属された時には胸を張って「大丈夫」と答えられる職員になりたいと思っています。



保健福祉部福祉局 地域福祉課 生活保護グループ

主		任		
なか	むら	あき	ひろ	(31)
中	村	明	広	

H18.5 道立鬼脇診療所 (採用)



初任地の鬼脇診療所では、庶務全般のほか、診察受付等の患者様への対応も行っていました。採用まもなくは知識がなかったので、終業後に財務規則や過去の書類をひたすら読んでいた記憶があります。

H20.5 日高振興局 保健環境部社会福祉課 保護係



日高では生活保護のケースワーカーになりました。私は元々人見知りでしたが、情報や認識を共有するために、生活保護の受給者や病院等関係機関、また診療所時代の患者さんとの話し合いを通じて、人見知りを克服し、スムーズにコミュニケーションできるようになったと思います。

H24.10 日高振興局 保健環境部静内地域保健室



次の静内地域保健室では、**健康推進課保健予防係→企画総務課総務係**健康増進や母子保健に係る補助金、総務を担当しました。生活保護では多くの法令や制度を把握することが求められたので、実務をこなすうち理解力が身につけており、また、財務事務を担当した経験から、抵抗なくこなすことができました。

H28.4 保健福祉部 福祉局地域福祉課 生活保護グループ(現職)

現在は、本庁の地域福祉課で生活保護の監査等を行っています。監査以外にも財務事務を担当していますが、全ての業務にこれまでの経験が活かされていると実感しています。監査が続く時期には外勤が多いため、デスクワークができず、帰庁後に処理しなければならないのでとても忙しいですが、同じような状況の同僚と励まし合いながら業務を進めています。

●印象に残っている業務

静内地域保健室で特定不妊治療を受けられている方への助成金を担当していた時、1度目の治療では残念な結果だった方も、2度目の治療で妊娠したと嬉しそうに話してくださったり、申請の際に治療によって出産したお子さんを連れてきていて、そのお子さんの笑顔を見た時には、幸せを分けてもらった気がしました。

また、同室で総務を担当していた時、食肉衛生検査所の立ち上げに関わりました。机もないところからスタートしたので、形になった時には感動しましたし、細かな物品の購入から搬送等の契約など、普段なかなか携われる業務ではないので、非常に良い経験になりました。

＼子どもたちと一緒に虫採り！／



）休日の過ごし方

私には息子が3人おりますが、みんな昆虫が大好きです。日高は私の地元であるため土地勘があり自然も豊かなので、夏には色々な山へ虫採りに行っていました。私は虫が大の苦手でしたが、子どもと一緒に虫採りをしているうちに克服したようで、今では彼らのあのフォームが可愛らしいとすら思うようになりました。

冬にも山に出掛けてソリ遊びをしていて、普段味わえないほどのスピードに子ども達も大喜びしていました。

）同僚たちとの関係

日高振興局時代には、課の中では若いほうで独身でしたので、先輩方には仕事を教えていただくことはもちろんですが、毎週のように飲み会やレジャーに連れて行ってもらうなど、公私ともにとてもお世話になりました。

さらに、私の結婚式への参列や手の込んだお祝いVTRの作成、2次会の企画までしていただき、異動してからも機会があれば声を掛けていただくなど、当時の先輩方には今でも頭が上がりません。

＼日高時代の先輩たちと結婚式での一枚／



）異動を経験して

複数の職場を経験することで業務の幅が広がりましたし、今の本庁勤務に確実に生きています。また、本庁でそれらの大本となる業務を経験することにより、さらに理解を深めることができおり、理解できるまで調べたり考えたり先輩方にご教授いただいたりと大変ではありますが、その度に自分の成長を実感できます。

）今後どのような職員を目指していきたいか

保健福祉部での仕事は、道民みなさんの生命に直接関わる重要な分野だと思っています。関係する法律や制度は多岐にわたり、勉強しなければならないことが数多くありますが、その責任を強く認識するとともに、今後も目の前の業務と全力で向き合いながら、必要な知識や経験を身に付けていきたいと思っています。

また、様々な職場を経験しさらに研鑽を積むことで、市町村などの関係機関や同僚からも必要とされるような道職員になりたいと思います。

経済部産業振興局 環境・エネルギー室 電源地域グループ

主	任		
さ	とう	あや	か
佐	藤	彩	花

(35)



H14.5 十勝総合振興局* 総務部総務課 職員厚生係 (採用)

→経済部林務課 林務係

初任地の十勝支庁林務課では、課の代表係として、課内調整や各種契約、予算管理を担当していました。課内はもちろん会計課の先輩方からも、温かくも厳しい指導を受け、財務事務のサービスや財務事務など道職員として基礎を身につけることができました。

*平成21年度までは「十勝支庁」でしたが、現在の組織名で表記しています。

H18.4 帯広土木現業所 企画総務部建設指導課 土木係

建設指導課では、建設業許可や経営事項審査などの許認可業務を担当しました。建設業者や行政書士からの申請・相談を受けるので、最初は緊張と専門用語のわからなさで苦労しましたが、建設業法や手引き等を頭にたたき込み、楽しく対応できるまでになりました。

H21.4 室蘭高等技術専門学院 庶務課

室蘭技専では、庁舎管理や庶務を担当していましたが、業務が幅広すぎて、こなすのに苦労しつつも、責任の重さと未来の技術者育成につながる仕事にやりがいを感じていました。

H26.4 経済部 産業振興部環境・エネルギー室 調整グループ

→電源地域グループ

現在は、本庁の環境・エネルギー室で、石油類燃料の安定供給と電源立地地域対策交付金等の交付事務を担当していますが、これまでに培った財務事務等の知識と経験が、市町村への指導や経産省とのやり取りなど交付金事業の適正執行等に役立っていると実感しています。

交付金の現地調査では、道内各地の市町村を回り、時期が重なるとデスクワークが追いつかず、とても忙しくなるので同僚と励まし合いながら乗り切っています。

●印象に残っている業務

室蘭技専の時に、雨の日は使用禁止にせざるを得ないほど体育館の雨漏りがひどかったため、屋根の改修工事を行うことになりました。大規模な建設工事の経験や過去事例がなかったので、胆振総合振興局の建設指導課の方にアドバイスをもらいながら、設計図面等を民間で経験のある訓練指導員が作成し、入札事務は私が担当することで役割分担し、限られたスケジュールの中、無事に契約を終え工事完成に至りました。十勝時代に身につけた財務事務や建設業の知識を活かしつつ、個々の力を結集して一つの仕事を成し遂げたことに、達成感とこれまでの様々な仕事を通して多くのことを経験し、成長できる道職員としてのやりがいを感じました。

＼フランスのパリ旅行／



）休日の過ごし方

十勝では、週末はほとんど職場の仲間と過ごしていました。林務課で製作した頑丈なイカダを使い、溪流下りをしながら、イカダの上で宴会したこともありました。また、全日本ママチャリ耐久レース（当時は17:00～5:00の12時間耐久）や、しばれフェスティバル（-30℃の中、氷のかまくらで一泊）には、毎年のように職場の仲間と参加し、同期のメンバーとも定期的に飲み会で集まったり、十勝管内各地でコテージキャンプやスノーボードを楽しんでいました。

室蘭では、新千歳空港が近いこともあり、海外旅行や道外旅行を毎年楽しみつつ、技専に勤めた影響もあってDIY（日曜大工）にハマり色んな家具や雑貨を作っていました。

＼室蘭の地球岬へ家族旅行／



）同僚たちとの関係

十勝では、週1～2回のバドミントンで汗を流し、マイボールを譲り受けボウリングにのめり込み、野球部マネージャーを務め各種大会に出るなど、職場の繋がりから多くの仲間に恵まれ、色んな経験をすることができました。

本庁にいる今でも、当時の仲間とバドミントン大会に出場したり、野球部で集まった飲み会で思い出話に大笑いしたりして、かけがえのない仲間たちに出会えたことに感謝しています。

）異動を経験して

私は異動のたびに、担当分野がガラッと変わったので、一から業務を覚えることに大変苦労をし、早く覚えなければというプレッシャーで毎回胃痛を引き起こすほどでした。この話をすると同僚にはウソだ～と言われるのですが、後にそのくらい前向きに仕事ができるようになるのは、その職場の上司や先輩方からの温かいご指導や、前職場の仲間たちからの励ましなど、多くの周りの方に支えられたからだと思います。

異動して新しい世界に飛び込むことは、何年たっても不安はありますが、新しい仕事も新しい人との出会いも自分の成長に繋がる貴重な機会だと思っています。

）今後どのような職員を目指していきたいか

道職員の仕事は多岐にわたります。全ての仕事が道民の皆様の暮らしを支えることにつながるのですが、職務によって誰のための行政サービスであるかの具体的対象は異なります。

今後も、一つ一つの仕事と向き合いながら、誰のため何のための職務なのかを意識し、その職務に必要な知識・経験を身につけ、市町村をはじめ、協力企業や同僚からも信頼される道職員になりたいと思います。

農政部農村振興局 事業調整課 事業管理グループ

主任

たて
蓼うち
内たけ
雄ひろ
大

(32)



H17.5 根室振興局 産業振興部農村振興課 事業用地係（採用）

初任地では、工事で作る施設のための土地の買収や補償業務を担当し、管内の農家さんに直接交渉に行っていました。農家の方々と話をする経験はとても貴重で、何回も交渉するので、会話のために時事ネタを調べたり、時には悩みや不安を聞く相手になったりと大変さもありましたが、今の私の粘り強さと会話力はこの経験で養われたと思います。

H22.4 十勝総合振興局 産業振興部調整課 財産管理係→契約係

十勝では公有財産の管理、譲渡等の財産管理業務と工事発注等の入札・契約業務を経験しました。契約業務は様々な法律や規則が関係していますが、覚えるほど奥が深く知識欲がかき立てられました。支払や入札が集中する3月～5月が特に忙しく、それを乗り切れればしばらくは自分のペースで仕事ことができました。

H28.4 農政部 農村振興局事業調整課 事業管理グループ(現職)

現在は、本庁で振興局の入札・契約業務の指導や制度管理、入札参加資格の決定業務などを行っていますが、十勝時代の入札・契約知識や根室時代の粘り強さと会話力が、振興局や建設業者とのやりとりや緊急時の対応に活きていると日々実感しています。

本庁では災害等の発生により不定期に忙しさが集中したり、2年に1度行う入札参加資格の定期審査が山場でした。定期審査は年明けから3月までに全道の膨大な量の申請書を夜間に確認し、日中は通常業務と並行し申請者に書類不備の連絡をする作業があり、夜寝ても申請書確認の夢を何度も見たのは笑い話です。

●印象に残っている業務

根室の事業用地係のときに農道を作るため、ある農家さんに用地買収の交渉に行きましたが、承諾を得られず最初は門前払いされました。それでもめげずに毎日朝から夕方まで足しげく通い、やっと家に上がらせてもらってから説教や嫌味を言われ、肩を落して職場に戻る日々が続きました。それでも粘り強く真摯に対応すると、次第に相手の反応がやわらかくなり、最後には笑いながら契約書にハンコをもらいました。あのときは嬉しさのあまり涙ぐみ、その日の夜は眠れなかったのを覚えています。

この業務を通じあらためて、自分が道民の皆様の生活に関わる仕事をしているということと信頼を得ることの大切さを実感し、やりがいを感じるとともに、道民の皆様との「信頼とつながり」を意識した職員を目指すきっかけとなりました。

＼マイホーム完成記念にパシャリ！／



）休日の過ごし方

根室時代はお祭りで神輿を担ぎ、潮干狩りや秋刀魚祭り、カニ祭りに参加し新鮮な魚介類を食べ歩き、イベントのない週末は管内の温泉めぐり、十勝時代は花火大会や十勝川イカダ下り、ワイン祭り、しばれフェスタに参加し、イベントのない週末は管内のお菓子屋さんめぐりと、職場の仲間と一緒に地域を余すことなく堪能しました。

本庁にきてからは、一人目の子供が生まれたこともあり慣れない育児に追われていますが、合間に周辺の観光をしています。最近は親バカを発揮し、子供が安心して遊べる（騒げる）ようにマイホームを建ててしまいました。

）同僚たちとの関係

独身寮時代は、同じ寮生と夜な夜な部屋で飲み会を開催し、時には寝ている寮生の部屋に突入し飲み会に巻き込んだりと、今思えば若気の至りですが毎日楽しんでいました。当時の寮生とは今でも繋がっていて、会うと必ずこの話で盛り上がります。

また、農政部ではスポーツが盛んで、特に各課対抗ボウリング大会は本気度が違い毎年熱い戦いが繰り広げられています。

＼十勝時代のイカダ下りの様子／



）異動について

道職員は数年に1度異動がありますが、私は異動を道内旅行と考え楽しんでます。普段なかなか行けない場所やイベントに参加できますし、その地域の食をたくさん楽しめます。何よりその地域を知ることによって色々な人に地域の魅力を伝えることができます。私は異動を通して、季節で色づく北海道の魅力を余すことなく堪能していきたいと思っています。

）今後どのような職員を目指していきたいか

私は農政分野で、魅力に溢れている北海道農業の発展に寄与したいと考えています。そのためには後継者問題、収益性の向上など様々な課題もありますが、振興局や本庁勤務を通じて課題に取り組む知識と経験はもちろんのこと、職員や地域の人との「信頼とつながり」を広げ、一体となって課題に取り組んでいく、その中心として頼られる職員になりたいと思います。

）道職員を目指す人にアドバイス

異動により職場や地域での出会いの場もたくさんありますし、異動が結婚のきっかけになったりもすることから道職員はお勧めですよ。

渡島総合振興局産業振興部 商工労働観光課



主 事

こん
近

どう
藤

ひろ
裕

まさ
壮

(29)

H24.12 十勝総合振興局 地域政策部地域政策課 地域政策係(採用)

→市町村係

↓
初任地の十勝総合振興局では、地域政策係を経て市町村係を経験しました。特に2年間経験した市町村係では過疎債や地方交付税などを担当し、とても忙しかったのですが、関係法令を学びつつ、市町村の方や政治団体の方から照会があった場合に、どのように返答すればよいかを身につけることができました。

H27.10 渡島総合振興局 産業振興部商工労働観光課主査付き(現職)

現在は2年程、食担当主査の下に付いて渡島地域の食振興業務を行っています。地元の食品生産者の方々と道内外の小売店等の仕入れ責任者(バイヤー)を結び付ける「販路拡大業務」や、食の専門家と結び付けて商品の磨き上げを支援する「ブランド化業務」の二本を柱として、生産者との仲介役となっています。

今の業務は自由度が高く、法律等の細かいしぼりは特にありません。ただ、内外に向けての資料作成等はどの業務でも必要で、それを叩き込まれた市町村係の2年間は業務を行う基礎になっていると思います。

一番の大仕事は、全国のバイヤーや食の専門家と地元の生産者を一堂に集めて行う相談・商談会で、一年に一度11月頃に函館市内で開催しています。新たに生産を始めた方や新品を全国の専門家やバイヤーの方々に紹介するため、一年間かけて道南の優れた商品の発掘・磨き上げを行っています。

●印象に残っている業務

一番大変なのは生産者の方々に、新たにこの商談会へ参加してもらうことです。

ただ案内を配ったところで参加はしてもらえないので、生産者の方々の元に足を運び直接話を聞いてくるのが大事になります。話を聞くと難しい課題や要求を受けることも多いですが、自分一人で解決できない問題は周りの支援機関や専門家の方々の協力を得て対応し、生産者の方々からの信頼を得ることで、商談会への参加にもつながります。また、実際に足を運ぶと新たな商品の種を発見することもあり、それも大きな楽しみになっています。多くの生産者の方々を相手にするため、失敗することも多いですが、実際に売り先が広がった時に直接感謝されることが、あきらめずに業務を進める原動力になっています。

＼先日行われた商談会の様子①／



）休日の過ごし方

北海道では、各市町村も食振興に力をいれているため、食のイベントが様々な場所で開催されます。

道の駅では「ごっこ祭り」や「たらこ祭り」などが開催されており、地元の特産品を食べに行ったりする機会が増えました。また、移動は車が主になるので、ドライブが疲れた時の気分転換にもなっています。私は運転が苦手でしたが、仕事でもプライベートでも運転する機会が増えたことで、今では遠出も楽しめるようになりました。

）同僚たちとの関係

現在は実家に住んでいますが、十勝総合振興局では寮に入っていました。仕事が忙しい時や悩みがあるときには、自分の仕事と全く別の仕事を行っている同僚に話を聞く事ができ、気が楽になりました。

また、寮の時は車を持っていなかったため、先輩にはいろいろな場所に連れて行ってもらいました。ちょっとした時に、再会したり、連絡をとりあったりできる仲になれたのも寮に入っていたからだと思います。

＼先日行われた商談会の様子②／



）異動を経験して

異動することにより、業務内容や人間関係も全く新しいものになります。自分に合っているときもあれば、合わないと思うときもありますが、様々な価値観や考え方に触れる機会になっていて、見識が広がったと思います。また、自分は北海道出身ですが、自分の住んでいた地域以外のことをこんなに知らなかったのかと度々思われています。

）今後どのような職員を目指していきたいか

地域の独自の資源や文化を活かしたイベントなどの運営に携わりたいと、道職員になりました。十勝に配属となり、約3年間法令などをしっかり学び、貴重な経験を積んだ後、今の配属で当初から希望していた仕事をしています。今、実際に食の仕事をしていて、イベント等を企画し実行する際には、地元の方々の声を聴かなければ成果は出ないと感じています。どうやって声を聴くのかというのは難しい問題で、メールや通知文だけでは聴き取れないと思います。地道に足を使って、自分一人の考えではなく、地域の声に根差した政策を立案し、実行していける道職員になりたいと思います。

オホーツク総合振興局 地域創生部 地域政策課市町村係

主	任	
たけ	ばやし	りょう
竹	林	遼 (31)



H25.9 総合政策部 地域行政局市町村課 行政グループ (採用)

初任地でまず学んだことは、「公務員とは何ぞや」です。あられる書類、ひたすら回ってくる決裁など、最初はなかなか馴染めませんでしたが、市町村課は人生の先輩に事欠きません。道内市町村や国から道へ派遣されている職員もいるなど、様々な場所から個性溢れる人が集まるこの場所で、共に働き、飲む中で、公私ともに大切な知識を教えていただきました。

また、行政グループの業務は非常に幅広く、グループ名どおりの行政に関する仕事から、住基ネットやマイナンバー、選挙など特徴的な仕事も行うことができ、とにかく様々な経験ができました。

H28.4 オホーツク総合振興局 地域創生部地域政策課 市町村係

オホーツクに来てからは、環境の変化はもちろんですが、末席から次席への **(現職)** 昇格、周囲の年齢層の低下、仕事の多様化など、全てが一変しました。市町村の起債関係や予算、公務員の給与や職員交流など、本庁では各グループに分かれていた業務が一つの係に集約されているので、次席業務と相まってとにかく覚えることだらけでしたが、係歴の長い後輩だけでなく、市町村役場の担当者にも色々教えてもらいながら仕事をこなしています。

仕事の幅が広いため、一年を通してあまり暇な時期がなく、時には残業必須な場合もありましたが、後輩や上司とのコミュニケーションを大切にしながら、食べて飲んで騒いでいたら、仕事の大変さも忘れ、あっという間に1年が経過していました。

●印象に残っている業務

本庁時代で印象に残っている業務は、市長会・町村会関係です。知事や市町村の首長が集まる場をセッティングするため、幹部に説明する機会が多く、簡潔な資料作成や効率的な物事の段取りを行う能力を磨くことができました。また、幅広い部署と関わるため、道内の最新の話題に触れたことも、良い刺激になりました。

オホーツクに来てからは、やはり選挙でしょうか。今まではただ投票するだけの選挙でしたが、実務側では限られた時間で大量の事務を一つのミスもなく終わらせる必要があるため、係員一体となって夜遅くまでお互いの意見をぶつけながら仕事をする様は、もはや「祭り」のようなものでした。(一部には怒られるかもしれませんが…。)



）休日の過ごし方

振興局の楽しみは、なんとと言っても普段なかなか行けない場所にしばらく住めることだと思います。日数の限られた旅行では味わうことのできない、四季折々の食と観光、これに尽きます。

※皆さん知っていますか、流氷明けの毛ガニはめっちゃうマですし、網走の藻琴には「幻の牡蠣」があるんですよ！

私の場合は管内のみならず根室や十勝まで足を伸ばしながら、食事や温泉、観光スポットを巡る日々です。また、仕事上役場の担当者と関わる機会が多いため、市町村の祭りに参加したり、担当者と飲んだりする機会も多いです。

ちなみに買い物はネット通販で何も問題ありません。

）同僚たちとの関係

仕事はもちろんのこと、飲み会や旅行のほか、家で鍋をやったり、テニスに行ったりマラソンに出たり…と、後輩のみならず、上司含め、公私ともに非常に関わる機会が多いです。

そういう中で大切にしていることは、仕事をしているときはしっかりと。でも休日は上下あまり気兼ねなく。ただ言いたいことははっきりと口に出す。そのような関係づくりができるよう心がけています。

＼同僚と町の職員さんたちとBBQ！／



）異動について

私にとっての異動とは、即ち長期の旅行。せっかく今まで住んだことない場所に行くのだったら、楽しまなきゃもったいないです。北海道は広いので、その土地に根付く気候や風土、人の性格まで多種多様だと思います。公私含め様々な人や物事に接することは、人生の経験値を積むことができる、非常に良い機会です。

）今後どのような職員を目指していきたいか

業務の軸を一本決めながらも、様々な業務に携わることで、既存のやり方にとらわれない、柔軟な仕事を行える人材になりたいです。また、同じ観点から、道のみではなく国や市町村にも派遣に行くことで、それぞれの立場や価値観を共有できたらと考えています。その他にも、みんなが議論し、切磋琢磨できるような風通しの良い職場づくりをするために、周囲を巻き込める人材になりたいです。

若手職員とこれから
道職員を目指す人たちへ

道外出身かつ民間企業を経て道職員になった私から見れば、様々な可能性に満ちあふれた職場だと思います。日々の業務を淡々とこなすのではなく、ぜひ前向きに、幅広くアンテナを張りながら、公私ともに楽しんで欲しいです！



根室振興局 産業振興部 水産課 漁政係

主

事

やま

山

ぐち

口

てつ

徹

た

大

(28)

H20.5 日高海区漁業調整委員会(採用)

→日高振興局 産業振興部水産課 漁業管理係(併任)

私は、初任地である日高海区漁業調整委員会から現在に至るまで、水産関係の業務に携わっています。海区漁業調整委員会では、漁業調整のために必要な業務を担う行政委員会として、定期的に関催される委員会の準備や、漁獲集計等を行っていました。3年目からは、水産課漁業管理系の業務もするようになり、各種漁業の許認可事務や漁船登録事務等を行っていました。

H26.4 根室振興局 産業振興部水産課 国際漁業係→漁業管理係

→漁政係(現職)

根室振興局へ赴任後も、国際漁業係や漁業管理係と、日高振興局時代とほぼ同様の業務内容だったこともあり、地域差はありましたが通常業務で困ることは特段なく、懸案事項にも積極的に取り組むことができました。H28年8月からは、漁政係に配置され、総務業務をはじめ水産金融、補助金、漁業協同組合に対する指導等の業務を行っています。これまでの許認可業務から庶務・漁業経営に直接関連する業務へと変わり、自分の視野の狭さや、これまでの業務が水産業の一部に過ぎないことを改めて痛感したところです。

業務の忙しさについては、漁業管理係では年間を通じて出張・外勤が多く、職場にいる時間が少ないため、事務処理が追いつかないことが少なからずありましたが、漁政係では、出張・外勤が少ないため、通常業務に対しても根拠法令を確認する等、入念に業務を進めることができている。

●印象に残っている業務

私は、採用されるまで一度も「漁業」というものに関わったことがなかったため、「漁業法」という法律が存在することも知らず、就職した当初はまさに右も左も分からない状態でした。このため、毛ガニの資源量調査や秋サケのウロコ調査で初めて生きた毛ガニやサケを触ったときや、河川に設置されている魚道に堆積した土砂を人力で除去する作業、漁船測度で初めて造船所に入った際など、新しいことを体験した喜びは、水産関係業務の魅力として強く印象に残っています。

また、最近では補助事業担当として、地域水産業の発展に対する自治体や水産関係団体の熱意を感じる機会が多く、自分が地域経済の回復・向上を少しでもお手伝いできるような日々努力しています。

＼根室でのミニバレー大会のときの様子／



）休日の過ごし方

休みの日は基本的に寝ていますが、根室市内で年に数回開催されるミニバレー大会には、水産課の若手職員で出場しています。ミニバレーは、初任地である日高振興局のときから続けており、週に1回、市内の体育館で練習していますが、元々、私は運動が得意ではありませんでした。しかしながら、就職早々職場の先輩に勧められてミニバレーをやってみると、周囲も運動が苦手な方が多く、自分の運動音痴が露見されないことがわかり、現在まで続けるに至っています。

ちなみに、先日出場した根室市内の大会において、試合中右足首を捻挫し、途中欠場する事態となりました。

＼ミニバレー大会に出場した仲間と／



）同僚たちとの関係

当課は、新規採用職員が多く在籍しており、課内の平均年齢が31歳と、若い職員が非常に多いです。このため、先程の休日の過ごし方にもありましたが、週に1回、課のみんなと市内の体育館でミニバレーをやっています。最近、趣味の多様化もあって、日々のストレス発散方法は各自で異なると思いますが、社会人になってから運動する機会はなくなるので、生活習慣の改善も併せ、職場内でのコミュニケーションの活性化のため、これからも続けていけたらと思います。

）異動を経験して…

北海道は、地域によって獲れる魚が異なるので、漁業形態・地域事情が全道各地で異なります。このため、どこか一箇所の振興局で職務経験をしていても、全道の水産業を知ることにはできません。仕事のスキルアップを考えると、複数の振興局を経験することが重要だと思っています。

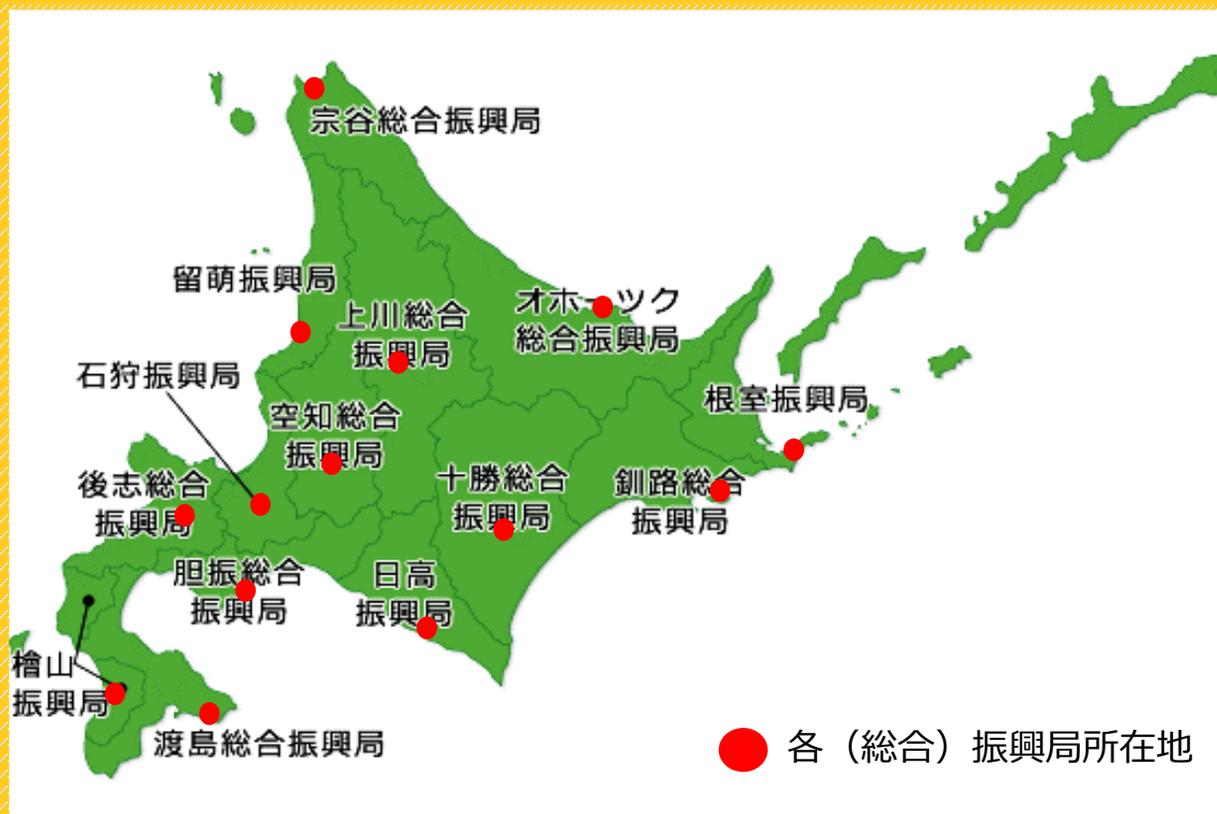
）今後どのような職員を目指していきたいか

私は一般職ですが、初任地がたまたま水産関係の部署で、現在に至るまで水産課に所属しています。水産課では、自分の仕事に対して漁業関係者から感謝される機会が多いです。このため、地域に求められる職員になりたいという想いは採用当時からあり、仕事に対する心の原動力となっています。今後も、振興局勤務や本庁勤務を経て、必要な知識と経験を身につけ、地域から頼られるような道職員になりたいと思います。



その先の、道へ。北海道

HOKKAIDO. EXPANDING HORIZONS.



道職員活躍事例集（中堅職員編）

平成29年11月

北海道

【ご意見などがありましたらこちらまで】

北海道総務部人事局人事課人事グループ

電話：011-204-5078

FAX：011-221-6399

Email: somu.jinji10@pref.hokkaido.lg.jp